

日本国際理解教育学会 第19回 研究大会プログラム

主催
日本国際理解教育学会
同志社女子大学

後援
京田辺市 京田辺市教育委員会 京都府教育委員会 京都市教育委員会
大阪府教育委員会 大阪市教育委員会 奈良県教育委員会 奈良市教育委員会

会員の皆様方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、日本国際理解教育学会第19回研究大会を下記の日程で開催することになりました。会員の皆様はもとより、学会未加入の方々にもお誘いあわせの上、多数のご参加を賜りますよう御願ひ申し上げます。

第19回研究大会実行委員長 藤原 孝章

会場

同志社女子大学現代社会学部
〒610-0395 京田辺市興戸
(京田辺キャンパス)



大会日程

大会1日目	2009年6月13日(土)	大会2日目	2009年6月14日(日)
9:00	受付開始	9:00	受付開始
9:30	自由研究発表	9:30	自由研究発表
12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	総会	13:00	特定課題研究
14:00	シンポジウム	16:00	大会終了
17:30	懇親会		

(懇親会場：ウエルサンピアホテル・送迎バス)

プレ・イベント：6月12日(金)

15:00-15:45	吉田敦彦氏講演会「ユネスコ・スクールとシュタイナー教育」
16:00-17:00	京田辺シュタイナー学校現地見学会
17:30-19:00	理事会(同志社女子大学)

日本国際理解教育学会第 19 回研究大会
公開シンポジウム

国際理解教育と『習得・活用・参画』に結びつく力
—ワークショップや社会参加学習がめざすもの—

主催
日本国際理解教育学会
同志社女子大学

後援
京田辺市 京田辺市教育委員会 京都府教育委員会 京都市教育委員会
大阪府教育委員会 大阪市教育委員会 奈良県教育委員会 奈良市教育委員会

本学会では、総合的な学習の時間と関連して、国際理解教育で身につく力とは何か、確かな学力とは何かを議論してきました（学会紀要 12 号）。2008 年度に告示された新学習指導要領では、基盤となる知識の習得や活用、社会参画に向かう力の育成をめざしています。本シンポジウムでは、本学会での研究を踏まえて、国際理解教育におけるワークショップや社会参加学習が知識の習得・活用・参画とどのように結びつくのか、結びつけようとすればそこにどんな課題があるのかを、議論し、検討したいと思います。世界的な規模で起きている経済的な変動は、グローバルな規模での相互依存と持続可能な社会への関心をいっそう高めています。国際理解教育が、生きる力の育成を掲げる日本の教育現場にどれだけせまるか、広く議論できることを期待しております。

趣旨説明：藤原孝章（同志社女子大学）

指定討論者：大津和子（北海道教育大学、メタ的な立場から）

中山京子（京都ノートルダム女子大学、実践研究の立場から）

提案者：ワークショップ①「フードマイレージ：買物ゲームで何が学べるか？」

林 美帆 [(財) 公害地域再生センター (あおぞら財団)]

松井克行 (大阪府立三島高等学校)

ワークショップ②「ひとかけらのチョコレートから」

織田雪江 (同志社中学校)

ワークショップ③「スタディツアーが生徒に与える影響—気づきと変化 (行動)」

山田正人 (大阪府立松原高等学校)

場所

知徳館 4 階 402 教室 (全体会場)・分科会場 (聡恵館 351, 352, 353 教室)

すすめ方の概要

14:00-14:10 10分 はじめのあいさつ、趣旨説明、登壇者紹介、移動に 10分

14:20-15:40 80分 3つの分科会、ワークショップの体験、交流、休憩・移動に 10分

15:50-16:50 60分 全体会ふりかえり、指定討論、

16:50-17:00 10分 おわりのあいさつ

授業実践の紹介ではなく、当日の体験者の学びを、「習得、活用、参画」の観点からとりあげます。

・チョコレート：体験者 32 名＋オブザーバー

・フードマイレージ：体験者 40 名＋オブザーバー

・スタディツアー：体験者 25 名＋オブザーバー

(リソースパースンとして OB 生徒 5 名、生徒の変容を語る、スタディツアーの企画)

日本国際理解教育学会第19回研究大会 プレ・イベント
6月12日(金曜)午後3時から

講演と現地見学会
ユネスコ・スクールとシュタイナー教育
京田辺シュタイナー学校の事例

主催：同志社女子大学（現代こども学科）
協力：(NPO 法人) 京田辺シュタイナー学校

場所

(講演会) 同志社女子大学 知徳館 C282
(15:00-15:45)
大阪府立大学教授・吉田敦彦氏
(児童・生徒のノート・作品展示)
(現地見学) 京田辺シュタイナー学校
(16:00-17:00)
京田辺シュタイナー学校教員による案内
(参加者は20名まで)



同志社女子大学正門（右図）に隣接する京田辺シュタイナー学校（NPO法人）のご厚意とご協力をえて、大会前日の6月12日金曜日にプレ・イベントとして、この学校の理事でもある吉田敦彦氏による講演会と現地見学会を開催します。講演会および現地見学会の申込等は、大会事務局（同志社女子大学藤原孝章研究室）までメールでお願いします。

6月13日(2日目午後)特定課題研究
ことばと国際理解教育

司 会：山西優二（早稲田大学）
報告者：横田和子（聖心女子大学） 丸山英樹（国立教育政策研究所）
服部圭子（近畿大学） 吉村雅仁（奈良教育大学）

この研究プロジェクトを立ち上げた背景には、小学校に英語活動がその目的や方法に関して丁寧な議論のないまま導入されようとしていること、また地域では多言語・多文化化が進展する中で、外国につながる人たちにとっての生活言語としての日本語と母語への対応のあり方が問われていること、さらには世界ではグローバル化などの影響のもと少数言語が急激にその数を減らしつつあることなど、ことばを取り巻く現場の問題状況に対して、学会もしくは研究会として何らかの視点や方策を示すことが必要であるとの思いがある。

そのような思いを背景に、課題研究「ことばと国際理解教育」では、多言語が互いに交錯し合う今日的狀況の中で、従来の言語観を捉えなおし、ことばに内在する身体性や音の力、ことばにみる文化性などにも注視し、改めて「ことばと国際理解教育」の関連の多様性や多様な実践の可能性を明らかにすることを基本的なねらいとしている。

4月のオープンフォーラムでは、「ことばの豊饒性に触れる一音・身体・学び」をテーマに、内田樹氏を講師にお招きし、ことば観・言語観そのものを捉えなおす視点について考えたが、研究大会では、これまでの研究プロジェクトでの協議内容を報告しつつ、ユネスコや諸外国の言語教育政策、日本語活動、英語活動・複言語活動などの立場から、「ことばの捉え方」「ことばと国際理解教育の関連」にみる多様性・多面性について報告・検討することにした。

自由研究発表



自由研究発表は、発表 20 分、質疑応答 10 分の 30 分です。当日は、タイムキーパーから 20 分（一鈴）20 分、25 分（二鈴）、30 分（三鈴）に鈴でお知らせします。三鈴のときには、発表の途中でもあっても直ちに終了をお願いしますので、ご了承ください。なお分科会の韓国語発表では通訳がつかます。

第 1 日（6 月 13 日）第 1 分科会～第 7 分科会

第 1 分科会 T351 教室

司会：森茂岳雄（中央大学）
北山夕華（名古屋大学留学生センター）

- (1) ESD におけるシティズンシップ-ESD の教育目標を読み解く-
小関一也（常磐大学）
- (2) 国際理解教育におけるローカルシティズンシップについて
岡崎 裕（プール学院大学）
- (3) シティズンシップ教育をめぐるアジアの動向-マレーシアの取り組みを中心として-
手嶋将博（文教大学）
- (4) シティズンシップ教育をめぐるヨーロッパの動向-欧州評議会と EU の取り組みについて-
中山あおい（大阪教育大学）
- (5) ロシアのシティズンシップ教育におけるパトリオティズム
嶺井明子（筑波大学）

第 2 分科会 T355 教室

司会：宇土泰寛（椋山女学園大学）
風巻 浩（神奈川県立麻生高等学校）

- (1) クジラを通して世界を見つめた総合的な学習の時間の実践
高橋順一（桜美林大学）
蓮見信夫（板橋区立志村小学校）
- (2) 学校教育において”わかる”を社会参加につなげるファシリテーターの役割とその可能性-開発教育からのアプローチ-
山中信幸（柳学園中・高等学校）
- (3) 子どもの「社会参画」の力を育てる国際理解教育のカリキュラム開発に関する研究
藤崎隆博（鹿児島大学大学院）
- (4) 日本の南極領有権放棄の是非-全校参加ディベート-
鹿野敬文（福岡県立福岡高等学校）
- (5) 「変化の可能性」を信じることができる生徒を育てる-「人間科」を中心とした国際理解教育の実践と課題-
野中春樹（広島なぎさ中・高等学校）

第 3 分科会 T353 教室

司会：桐谷正信（埼玉大学）
本多千明（聖トマス大学）

- (1) 大学と ESD-大学を取り巻く持続不可能性-
曾我幸代（聖心女子大学大学院）
- (2) ESD と学力に関する教育研究
丸山英樹（国立教育政策研究所）
- (3) ESD 推進における高等教育の役割
小林 亮（玉川大学）
- (4) ESD による価値観・態度・ライフスタイルの変容:カンガルー島スタディツアーを通したフィールドスタディーズの試み-
永田佳之（聖心女子大学）
- (5) 高等教育交流における国際理解の位置づけ:東南アジアの留学生政策から
上別府隆男（東京女学館大学）

第 4 分科会 T354 教室

司会：山西優二（早稲田大学）
井ノ口貴史（京都橘大学）

- (1) 韓国教育科学技術部の多文化教育政策分析—多文化家庭子女教育支援政策を中心に—
金孝宣（キム・ヒョソン）・韓王進相（ハン・ジンサン）〈延世大学校大学院教育学科〉
- (2) 多文化教育における「学び」の研究—学び学の観点から—
韓駿相（ハン・ジュンサン）・孫佳延（ソン・カヨン）〈延世大学校大学院教育学科〉
- (3) 豊中市国際教育推進会議の取り組み：つどう・つながる・つちかう未来への行動力 豊中型国際教育の発信
安家紀子（豊中市教育委員会）
- (4) 地域日本語教育にみることばと問題解決の関係性-国際理解教育の視点から-
宮野祥子（早稲田大学大学院）
- (5) 地域日本語ボランティアの不安と気づき-養成講座の充実に向けて-
服部圭子（近畿大学）

第5分科会 T356 教室

司会：今田晃一（文教大学）
石森広美（宮城県仙台東高等学校）

- (1) アジア・北欧7カ国の高校生による「持続可能な社会への提案」-アジア・北欧7カ国高校生国際会議から-
伊井直比呂（大阪教育大学附属高等学校池田校舎）・大島弘和（大阪府立北淀高等学校）・米田謙三（羽衣学園高等学校）
- (2) 持続可能な英語力の育成-高校生国際会議の実践を通して-おおしま
南美佐江（奈良女子大学附属中等教育学校・立教大学大学院）
- (3) 学習内容としてのWHE(世界遺産教育)の可能性Ⅱ-世界遺産教育を通じた生徒の変化
祐岡武志（奈良県立法隆寺国際高等学校）
- (4) 世界遺産教育における教育委員会の役割-奈良市教育委員会の現状-
中澤静男（奈良市教育委員会）
- (5) インドネシアの民族と文化の多様性をテーマにした多文化共生教育
孫 美幸（立命館大学大学院）

第7分科会 T358 教室

司会：渡部 淳（日本大学）
磯田三津子（京都橘大学）

- (1) 国際理解教育におけるICTの活用-デジタル紙芝居の作成と日韓交流
木村慶太（立命館守山中・高等学校）
韓敬九（ソウル大学）
今田晃一（文教大学）
- (2) 持続発展教育（ESD）と日韓相互理解のための教育
釜田 聡（上越教育大学）
許 信恵（韓国・漢南大学）
- (3) 判決書を活用した人権教育としての市民育成教育に関する日韓の授業研究(1)電子掲示板における名誉毀損事件
梅野正信・釜田聡（上越教育大学）
（泉豊・鈴木克典・二谷貞夫・金恩淑・李恵瑛・朴柄我・宮園衛）
- (4) The Research for Korea-Japan Mutual Understanding – focused on the result of questionnairng about the image of Korea-Japan relations (日韓相互理解のための研究)
許信恵 (Heo, Shin Hae) <Dept of History Education, Hannam University>

第6分科会 T357 教室

司会：寺島隆吉（岐阜大学）
栗山丈弘（文化女子大学）

- (1) 多文化共生と複言語主義についての一考察
石川祥一（実践女子大学）
- (2) 地球市民の資質に関する認識調査-短大英語学習者の視点から-
笠井正隆（関西外国語短期大学）
- (3) 変則的言説としての国際理解-リオタールへのローティの応答にもとづいて-
佃 繁（プール学院大学）
- (4) 現代の日本人の若者の対人距離についての一考察-近接学の立場から-
廣内裕子（園田学園大学）
- (5) 国際理解教育における起業家教育の活用に関する研究
吉成佑美（上越教育大学大学院）



第2日(6月14日)第8分科会～第15分科会

第8分科会 T351 教室

司会：嶺井明子(筑波大学)
小関一也(常磐大学)

- (1) 中国の多元文化教育に見る「多様性と統一」-北京市における民族団結教育の理論及び実践から-
鶴見陽子(中央大学大学院)
- (2) 中学校におけるシティズンシップ教育-日本とスウェーデンの国際比較-
武 寛子(神戸大学大学院)
- (3) 多元的シティズンシップを育成するカリキュラム構成原理-ヨーロッパ評議会のLiving in Democracyを手がかりに-
橋崎頼子(神戸大学大学院)
- (4) シティズンシップ教育における多様性とナショナル・アイデンティティ-スコットランドとイングランドの比較から-
北山夕華(名古屋大学留学生センター)
- (5) グローバルシティズン再考-高校での実践から
石森広美(宮城県仙台東高等学校)

第9分科会 T353 教室

司会：高橋順一(桜美林大学)
伊井直比呂(大阪教育大学附属
高等学校池田校舎)

- (1) ラオス・タイのスタディツアーから生まれたESD教材-正の循環・負の連鎖から「つながり」を考える-
水野涼子(聖心女子大学大学院)
- (2) 高校生のためのアフリカ開発経済学テキストを作成して-WHE授業実践の中で-
辻 良隆(大阪市立南高等学校)
- (3) 高校世界史におけるアフリカ史のカリキュラム開発-同時代史的視点にたった教材開発を志向して-
井ノ口貴史(京都橘大学)
- (4) ウガンダと日本を結ぶ「希望」と「平和」の授業-「対話的学びのネットワーク」の考察
風巻 浩(神奈川県立麻生高等学校)
- (5) オーストラリア観光産業におけるアボリジニ文化の表象-アボリジニ文化の理解にむけて-
青山晴美(愛知学泉短期大学)

第10分科会 T354 教室

司会：上別府隆男(東京女学館大学)
服部圭子(近畿大学)

- (1) 授業実践と演習を通じた学びの獲得：ある韓国人留学生の場合
齋藤真宏(旭川大学)
- (2) 公立学校(小中高)における外国籍教員の現状と課題-多様性を認めあう国際性豊かな学校をめざして-
方 政雄(兵庫県立湊川高等学校)
- (3) 「異文化理解教育」への提言-“国際派保育士”による実践報告「個性」の必要性-
金 悦子(Angel world 主宰)
- (4) 雑種(ハイブリッド)音楽の創造過程にみる多文化共生-京都市九条マダンの演目「和太鼓&サルムノリ」の教材化にむけて-
磯田三津子(京都橘大学)
- (5) A Cultural Review on the Multiculturalism Discourse of North Korean Refugees-From and Eruditional Viewpoint(北朝鮮難民の多文化主義言説に関する文化的考察)
Ha Jiyoung・Baek Hye Jin)<Dept of Lifelong Education, Yonsei University

第11分科会 T355 教室

司会：田尻信一(富山大学)
中澤静男(奈良市教育委員会)

- (1) 質的分析用PCソフトを活用した国際理解教育の授業の分析の試み
田島弘司(上越教育大学)
- (2) 博物館における歴史教育-展示と過去の再構築-
柴田政子(筑波大学)
- (3) インターネットを用いた博物館事前・事後研修の在り方-国立民族学博物館のwebページ情報を活用した教員研修計画-
今田晃一(文教大学)他
天野加奈子・長田朋之・野呂田純一
- (4) 博物館アウトリーチ教材の開発と実践-マレーシアにおける評価を中心として-
山田幸生・中島大輔
(香芝市立鎌田小学校)

第 12 分科会 T356 教室

司会：永田佳之（聖心女子大学）
山田千明（山梨県立大学）

- (1) 国際理解教育の新しい学びを創る-国民国家の揺らぎと教育現場-
小嶋祐司郎（奈良教育大学附属中学校）
- (2) 他者理解と自己理解を深める国際理解教育の単元開発
浅野博子（鳥取市立面影小学校）
- (3) 対立解決教育(Conflict Resolution Education)の可能性-「他者理解」の観点から-
吉田直子（青山学院大学大学院）
- (4) 新しい「相互依存」教材の開発に向けて
栗山丈弘（文化女子大学）
- (5) 発展的な文化交流をめざした授業の研究
植木節子（千葉大学）
高橋博代（千葉大学附属中学校）

第 13 分科会 T352 教室

司会：田淵五十生（奈良教育大学）
木村慶太（立命館守山中・高等学校）

- (1) ロールモデルと協働-ニューカマーの生徒への教育支援
森川与志夫・ロサ・オチャンテ・村井
（奈良県立法隆寺国際高等学校）
- (2) ペアレントクラシーへの転換がもたらすもの-外国人児童・生徒の現状を手掛かりとして
福山文子（海外日系人協会）
- (3) Bilingual/Multilingual Education towards Children within Korean Multi-cultural Family
（韓国多文化家庭のこどもに対する多言語教育）
Suh Chongnam（Deputy Director, Center for Kyonggi Multi-cultural Education）
- (4) 持続発展教育のための代案的構造
方載琳(バン・ジェイム)・申凡哲(シン・ボムチョル)・黄泰洪(ファン・テホン)
〈延世大学校大学院教育学科〉

第 14 分科会 T358 教室

司会：中山京子（京都ノートルダム女子大学）
山中信幸（柳学園中・高等学校）

- (1) 国際理解教育の視点を生かした中学校音楽科カリキュラム試案
居城勝彦（東京学芸大学附属竹早中学校）
- (2) 国際理解教育における国際問題学習の課題-高等学校国際関係学科設置校における「北方領土教育」の実践例を通して-
松原 久（京都府立園部高等学校）
- (3) 紛争後における民族共生構築に向けた教育の段階的アプローチ
小松太郎（九州大学）
- (4) ユーゴ内戦の教材開発-人道的介入を中心に
西尾 理（兵庫教育大学連合大学院）
- (5) 日米教員の協同による高等学校公民科の授業開発と実践報告-単元「かつての敵との和解は可能か？」の場合-
松井克行（大阪府立三島高等学校）

第 15 分科会 T357 教室

司会：大津和子（北海道教育大学）
南美佐江（奈良女子大学附属中等教育学校・立教大学大学院）

- (1) 帰国生の特性を活かした世界史教育-海外ワークショップの成果を取り入れた授業実践を通して-
山本勝治（東京学芸大学附属国際中等教育学校）
- (2) 多様化する帰国生への支援のあり方-お茶の水女子大学附属中学校の取り組み
木村真冬（お茶の水女子大学附属中学校）
- (3) 国際理解教育における方法論の再検討-JICA 国際協力出前講座に注目して-
中和 悠（広島大学大学院）
- (4) 国際理解教育における効果的な出前授業の在り方に関する研究-ユネスコ活動のスタディツアーに着目して-
小林和平（上越教育大学大学院）
- (5) 「協働・創造」を取り入れた異文化間交流の試み-小学生と留学生を対象としたワークショップの実践より-
今井寿枝・野畑理佳（国際交流基金関西国際センター）・品川直美（国際交流基金日本語試験センター）

ここに記載した題目および所属については、特に申請のあるもののぞき、3 月末の申し込み時点のものです。

同志社周辺及び懇親会場「ウエルサンピア京都」の地図



日本国際理解教育学会
第 19 回研究大会

2009 年 6 月 13 日 (土)・14 日 (日)

〒610-0395 京田辺市興戸
同志社女子大学現代社会学部現代こども学科藤原孝章研究室気付
日本国際理解教育学会第 19 回研究大会実行委員会

Tel&Fax. 0774-65-8596

email:tfujiwar@dwc.doshisha.ac.jp

学会公式ページ <http://www.kokusairikai.com/>

事前振込締切: 5 月 29 日

郵便口座番号: 00900=7=226039

加入者名: 日本国際理解教育学会第 19 回研究大会

(キャッシュレスにご協力ください)